

令和2年度とちぎ夢ファーレ 実績報告書 (HP用)

団 体 名：ふまねっと運動39 (サンキュー) クラブ
代 表 者 名：大山 潤一郎
会 員 数：10名
連絡先 (電話) :
メールアドレス :
団体 HP の URL :

○この活動を始めた動機 (目的)

シルバー大学南校39期生として、自らが地域活動や社会活動へ参加・貢献することの重要性を学んだ。このことを活かすため、有志が集い、高齢者の歩行機能や認知機能の改善が見込まれる「ふまねっと運動」クラブを立ち上げ、活動を展開することとした。高齢者の生きがいつくり・仲間づくりの一助となるよう、集える場を提供していきたい。

○実際に令和2年度に行った活動とその成果 (結果)

月	活動内容
4	年初の活動方針の確認と勉強会実施や教室運営方法などをメンバーに周知
5	ステップの勉強会を計画していたが、コロナ感染予防対策のため中止
6	教室運営の勉強会を基本ステップの習得を中心に実施
7	教室運営の勉強会を課題ステップⅠの習得を中心に実施
8	教室運営の勉強会を課題ステップⅡの習得を中心に実施
9	教室運営の勉強会をレクステップの習得を中心に実施
10	教室運営の勉強会を模擬教室形式(サポーター側と参加者側に分けて)にて実施
11	教室運営の勉強会を模擬教室形式にて実施
12	教室運営の勉強会を模擬教室形式にて実施
1	シルバー大卒業生から参加者を募り、ふまねっと運動体験教室を実施
2	前月に引き続き、ふまねっと運動体験教室を実施
3	活動の振り返りと次年度の活動方針を確認

○良かった点や苦労した点

令和2年1月に組織を立ち上げ活動を開始した。

健康教室を開催するには、メンバー全員が教室運営のノウハウを習得することが必須であった。このことから、定期的に勉強会を実施することからスタートしたが、コロナ感染拡大の影響で勉強場所が使用不可となり、中止となる月もあった。

また、勉強会を実施するにあたり、感染対策は万全を期していたが、常に、感染のリスクを気にしながら、不安を拭えない状態が続いた。並行して、教室を開催できる施設を開拓すべく行動を起こしたが、コロナ感染予防の観点から、当面様子見の状態が続くこととなった。

勉強会を重ねることにより、メンバーがその成果を、実際の教室開催で試してみたいとの気持ちが高まったものの、実現に至らず、やや消化不良な状態となり、勉強会自体がマンネリ化になる傾向が見受けられた。このため、参加者を募り体験教室を開くことにより、メンバーのモチベーションを保つことと、参加者視点での教室運営に於けるノウハウを取得できたことが大きな成果であり、今後の活動に活かせるものを得ることができた。

コロナ感染が拡大する状況下での活動となり、制約されることが多かったが、挫折することなく活動を継続できたことが非常に良かった。

○これからの展望

依然としてコロナ感染の終息が見えない状況で、引き続き、活動に支障を来たす場面が続くと思われるが、活動を継続し、常にブラッシュアップしていくことを目指していきたい。また、教室開催には厳しい状況が続くが、いつからでも要望に応えられるよう準備を怠ることのないようにしたい。

令和3年6月上旬、幸いにも健康教室を開催することができた。参加していただいた皆さんの楽しそうな笑顔と、この次も是非参加したいという言葉が、今後の活動の大きな財産になると思う。

できる限り、教室開催の機会を増やしていくことと、2回、3回と継続して開けることを目標にしたい。